

保育・初等教育専攻の学生が抱く 保育士イメージと子どものイメージとの関連性

— 文献及び意識調査に基づいて —

脇 輝 美

The Relation between Images of Childcare Workers and Images of Children
Held by Childhood Education Students

Terumi WAKI

I 緒 言

イメージとは、「われわれが日常生活の中で知覚にもとづいて絶えず抱いているのもので、イメージによって思考したり価値判断したりする」¹⁾ というように、「認知の枠組みを形成したり、行動統制的役割をもっている」²⁾ ため、保育士の職業認知に影響を及ぼし、保育士が自分自身に抱いている保育士としての自己イメージには、社会的イメージが内在的に影響を与えていると考えられる。

一般的に保育士は女性に適した職業の一つとされている。それは従来から子育てが主に母親にゆだねられているからであろう。このような社会的なイメージが、その職業人に影響を与えていることは、同様に女性の職業と評されてきた看護師や看護学生については、様々に研究されてきている^{3)~7)}。

そこで今回、保育士を目指す初等教育科・保育科の学生が保育士に対してどのようなイメージを持って、本大学に入学しているのかを明らかにしていくことは、学生が保育士としての自己を形成していく過程を知る上で、必要なことだと考えた。また、学生が子どもに対してどのようなイメージを持っているのか、それが保育士のイメージに関連があるかどうかを同時に明らかにすることを本研究の目的とする。

II 研究方法

1. 研究対象

2004年度の別府大学短期大学部初等教育科1年生145名・保育科1年生56名、合計191名。

2. 調査方法

自記式による質問紙調査法で、集合調査にて行った。質問紙は、基本的属性、保育士イメージと子どものイメージを問う3部構成である。保育士イメージ、子どものイメージは先行文献^{8)~10)}を参考にし、それぞれ30項目、10項目の形容詞対で、SD法による測定を7段階評定にて行った。

3. 調査期間

2004年5月10日～5月11日

4. 倫理的配慮

研究対象者には研究の目的、回答は無記名でよいこと、また結果は統計的に処理することで個人的情報は秘匿され、調査結果は目的以外は使用しないことを、質問紙に記載し、また口頭により説明を行った。回答は各個人の自由意志にまかせ、質問紙の回答により研究への参加の同意が得られたとすることも事前に説明した。

5. データの分析方法

イメージの質問項目は、肯定的イメージから否定的イメージへ、7～1点に割り当て、肯定的イメージが高いほど得点が高くなるように得点化した。

統計ソフトSPSS10.0Jを用い、以下の分析を行う。有意水準は5%とする。

- 1) 基本的属性と保育士イメージ、子どものイメージの得点については記述統計を行う。
- 2) 保育士イメージと子どものイメージについては、その構造の把握のため主因子法により因子分析（直交回転、バリマックス法）を行う。
- 3) 保育士イメージと子どものイメージの各因子の得点を出し、両者の関係をPearsonの相関係数によって検証する。

III 結果および考察

1. 回収率

199名に配票し、195名から回答を得られた。(回収率98.0%) そのうち有効回答数は191名であった。(有効回答率97.9%)

2. 対象者の概要 (表1)

兄弟の人数は、兄弟無しが4名 (2.1%)、1人が87名 (45.5%)、2人が85名 (44.5%)、3人が11名 (5.8%)、4人以上が4名 (2.1%)であった。

家族の形態は、核家族が137名 (71.7%)、3世代家族が51名 (26.7%)、その他が3名 (1.6%)であった。

母親の就労状況は、就労しているが155名 (81.2%)、就労していないが24名 (12.6%)、一時は就労していたが12名 (6.3%)であった。

子どもに接した経験は、非常にあるが58名 (30.4%)、あるが107名 (56.0%)、少しあるが20名 (10.5%)、ほとんどないが5名 (2.6%)、全くないが1名 (0.5%)であった。

保育園に通った経験は、あるが98名 (51.3%)、ないが93名 (48.7%)であった。

幼稚園に通った経験は、あるが149名 (78.0%)、ないが42名 (22.0%)であった。

これらの結果より、初等教育科・保育科の学生は、大部分が兄弟がおり、子どもに接した経験があることがわかった。また、3世代家族も

表1 対象者の属性 (n=191)

属性	項目	人数 (名)	割合 (%)
兄弟の人数	0人	4	2.1
	1人	87	45.5
	2人	85	44.5
	3人	11	5.8
	4人以上	4	2.1
家族の形態	核家族	137	71.7
	3世代家族	51	26.7
	その他	3	1.6
母親の就労	している	155	81.2
	していない	24	12.6
	一時していた	12	6.3
子どもに接した経験	非常にある	58	30.4
	ある	107	56.0
	少しある	20	10.5
	ほとんどない	5	2.6
	全くない	1	0.5
保育園の経験	有る	98	51.3
	無い	93	48.7
幼稚園の経験	有る	149	78.0
	無い	42	22.0

3割弱であることより、多様な人間関係の中で
 育成してきた学生が少なくないといえる。

8割以上の学生の母親は就労しており、これ
 より現代社会がかかえている女性の就労や子育て、
 保育に関しての問題について、考えること
 のできる素地をもっているといえる。

保育士を将来の職業に選ぶ要因のうちには、
 保育園に通った経験が大きいのではないかと予
 想されたが、約半数という結果からは、必ずし
 もその経験が影響するとはいえないと考えられ
 た。

3. 保育士イメージの因子分析結果

保育士イメージの因子分析結果を表2に示し
 た。先に述べた抽出方法にて、6因子が抽出さ
 れた。6因子での累積寄与率は、57.5%であ
 った。各質問項目は、±0.4以上の因子負荷量のう

ち、最大の因子負荷を示した因子に分類した。

各因子に含まれる項目から、それぞれの因子
 を次のように命名した。

第1因子では、「思いやりのある」「頼もしい」
 「明るい」「温かい」「親切な」「優しい」「気が
 利く」「たくましい」などが含まれた。これら
 は人格的に優れたものであることより、「人格
 的イメージ」と命名した。

第2因子は、「大変な」「慎重な」「感受性
 のある」「体力のある」「機敏な」「判断力
 のある」「責任感のある」「生き生きした」が
 含まれた。これらは保育士という職業人として
 必要な要素の特徴を示しているため、「専門
 的イメージ」とした。

第3因子は、「技術のある」「魅力のある」
 「価値のある」「ユーモアのある」「やりがいあ

表2 保育士イメージの因子分析

因子名	質問項目	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6	共通性
人格的 イメージ	20.思いやりのあるー思いやりのない	0.775						0.705
	24.頼もしいー頼りない	0.769						0.699
	25.明るいー暗い	0.767						0.679
	23.温かいー冷たい	0.759						0.683
	28.親切なー不親切な	0.718						0.653
	26.優しいーきつい	0.714						0.591
	30.気が利くー気が利かない	0.509						0.531
	27.たくましいー弱々しい	0.433						0.427
専門的 イメージ	10.大変なーささやかな		0.769					0.602
	6.慎重なー軽率な		0.667					0.540
	7.感受性のあるー感受性のない		0.547					0.607
	4.体力のあるー体力のない		0.533					0.432
	19.機敏なー鈍重な		0.532					0.465
	9.判断力のあるー判断力のない		0.523					0.457
	13.責任感のあるー責任感のない		0.467					0.381
	8.生き生きしたーぐったりした		0.450					0.573
価値的 イメージ	15.技術のあるー技術のない			0.772				0.697
	16.魅力のあるー魅力のない			0.752				0.713
	21.価値のあるー価値のない			0.704				0.617
	14.ユーモアのあるーユーモアのない			0.561				0.547
	5.やりがいのあるーやりがいのない			0.507				0.488
積極的 イメージ	1.楽しいー苦しい				0.724			0.691
	2.親しみやすいー親しみにくい				0.623			0.642
	3.向上心のあるー向上心のない				0.598			0.650
知的 イメージ	22.倫理的なー非倫理的な					0.796		0.669
	29.科学的なー非科学的な					0.739		0.639
	17.学問的なー非学問的な					0.602		0.515
消極的 イメージ	18.自由なー不自由な						0.662	0.559
	11.軽労働なー重労働な						0.513	0.489
	因子負荷量の2乗和	5.053	3.694	3.132	2.020	1.858	1.480	
	因子の寄与率(%)	16.844	12.314	10.441	6.734	6.193	4.953	
	累積寄与率(%)	16.844	29.158	39.599	46.333	52.526	57.461	

※因子負荷量画0.4以上の場合のみ数値を記載した。

る」が含まれた。これらは保育士という職業に価値をおいていると感じられるものであることより、「価値的イメージ」とした。

第4因子は、「楽しい」「親しみやすい」「向上心のある」が含まれた。これらは保育士にポジティブな印象を持っていると考え、「積極的イメージ」とした。

第5因子は、「倫理的な」「科学的な」「学問的な」が含まれた。これは職業上の知識を問うていると感じられることより「知的イメージ」とした。

第6因子は、「不自由な」「重労働な」が含まれた。これらは保育士のネガティブな印象と考えられたので「消極的イメージ」とした。

なお、「12.賢いー愚かな」の項目は、因子負荷量が0.339であったことより、除去した。

因子分析の結果より、学生は保育士のイメージに対して、「思いやりのある」とか「優しい」といった人間的な要素が大きいととらえており、専門的な技術やそれに伴う責任の重い職業像を思い描いているといえる。また、そのような側面を持つ職業であるという思いは、価値のある仕事として評価していることにもつながっていると考えられる。

反面、「重労働」や「不自由な」といったデメリットがあることも予想しており、「科学的」や「学問的」といった知的な側面については強い印象をもっていないとみられる。

次に各イメージについてそれに含まれる形容語の答えの分布について表3から表8に示す。

表3からは、人間性をあらかず「思いやりのある」「明るい」「優しい」などのイメージは非

表3 人格的イメージ(保育士)の各項目の答えの分布 人数(%) (n=191)

質問項目	非常に	かなり	やや	どちらともいえない	やや	かなり	非常に	質問項目
思いやりのある	152 (79.6)	30 (15.7)	4 (2.1)	5 (2.6)	0	0	0	思いやりのない
頼もしい	108 (56.5)	68 (35.6)	12 (6.3)	2 (1.0)	1 (0.5)	0	0	頼りない
明るい	150 (78.5)	33 (17.3)	4 (2.1)	3 (1.6)	1 (0.5)	0	0	暗い
温かい	128 (67.0)	44 (23.0)	15 (7.9)	4 (2.1)	0	0	0	冷たい
親切な	113 (59.2)	48 (25.1)	23 (12.0)	6 (3.1)	1 (0.5)	0	0	不親切な
優しい	128 (67.0)	35 (18.3)	11 (5.8)	9 (4.7)	4 (2.1)	2 (1.0)	2 (1.0)	きつい
気が利く	98 (51.3)	61 (31.9)	22 (11.5)	9 (4.7)	1 (0.5)	0	0	気が利かない
たくましい	96 (50.3)	58 (30.4)	33 (17.3)	4 (2.1)	0	0	0	弱々しい

常に強くもっているということが読み取れる。これは子どもへの愛情が保育の基盤であることを学生が感じ、またそれを望んでいるからだと考える。

表4からは、「判断力のある」や「感受性のある」といった専門職としての能力の高さを保育士のイメージとしてもっていると考えられる。そしてそのことは8割の学生が、「責任感が非常にある」と答えていることより、保育に対して責任の重さを感じていると思われる。

表5からは、「やりがいのある」「魅力のある」

「価値のある」に対して半数以上が非常にあると答えており、ほとんどの学生が保育士に高い価値をおいていることがわかった。これは、対象が1年生であることを考えると、保育に対して意欲や夢をもって入学してきていると予想される。

表6からは、非常に「楽しい」または「親しみやすい」と感じている学生は、上記までのイメージとは違ってやや少なくなる。しかし全体としてはそのように積極的な面を見ている学生がほとんどである。職業である以上楽しいこと

表4 専門的イメージ(保育士)の各項目の答えの分布 人数(%) (n=191)

質問項目	非常に	かなり	やや	どちらともいえない	やや	かなり	非常に	質問項目
大変な	88 (46.1)	60 (31.4)	26 (13.6)	16 (8.4)	1 (0.5)	0	0	ささやかな
慎重な	86 (45.0)	55 (28.8)	27 (14.1)	22 (11.5)	1 (0.5)	0	0	軽率な
感受性のある	99 (51.8)	61 (31.9)	26 (14.6)	5 (2.6)	0	0	0	感受性のない
体力のある	102 (53.4)	60 (31.4)	20 (10.5)	7 (3.7)	2 (1.0)	0	0	体力のない
機敏な	51 (26.7)	71 (37.2)	37 (19.4)	32 (16.8)	0	0	0	鈍重な
判断力のある	98 (51.3)	69 (36.1)	15 (7.9)	9 (4.7)	0	0	0	判断力のない
責任感のある	153 (80.1)	29 (15.2)	4 (2.1)	5 (2.6)	0	0	0	責任感のない
生き生きとした	100 (52.4)	56 (29.3)	23 (12.0)	7 (3.7)	4 (2.1)	1 (0.5)	0	ぐったりした

表5 価値的イメージ(保育士)の各項目の答えの分布 人数(%) (n=191)

質問項目	非常に	かなり	やや	どちらともいえない	やや	かなり	非常に	質問項目
技術のある	59 (30.9)	59 (30.9)	49 (25.7)	23 (12.0)	1 (0.5)	0	0	技術のない
魅力のある	113 (59.2)	44 (23.0)	25 (13.1)	7 (3.7)	1 (0.5)	1 (0.5)	0	魅力のない
価値のある	112 (58.6)	51 (26.7)	16 (8.4)	11 (5.8)	1 (0.5)	0	0	価値のない
ユーモアのある	84 (44.0)	53 (27.7)	42 (22.0)	12 (6.3)	0	0	0	ユーモアのない
やりがいのある	142 (74.3)	38 (19.9)	6 (3.1)	4 (2.1)	1 (0.5)	0	0	やりがいのない

表6 積極的イメージ(保育士)の各項目の答えの分布 人数(%) (n=191)

質問項目	非常に	かなり	やや	どちらともいえない	やや	かなり	非常に	質問項目
楽しい	15 (7.9)	67 (35.1)	67 (35.1)	19 (9.9)	17 (8.9)	6 (3.1)	0	苦しい
親しみやすい	36 (18.8)	74 (38.7)	61 (31.9)	16 (8.4)	1 (0.5)	3 (1.6)	0	親しみにくい
向上心のある	54 (28.3)	71 (37.2)	43 (22.5)	20 (10.5)	2 (1.0)	1 (0.5)	0	向上心のない

表7 知的イメージ(保育士)の各項目の答えの分布 人数(%) (n=191)

質問項目	非常に	かなり	やや	どちらともいえない	やや	かなり	非常に	質問項目
倫理的な	28 (14.7)	38 (19.9)	38 (19.9)	82 (42.9)	3 (1.6)	2 (1.0)	0	非倫理的な
科学的な	11 (5.8)	11 (5.8)	28 (14.7)	100 (52.4)	20 (10.5)	14 (7.3)	7 (3.7)	非科学的な
学問的な	22 (11.5)	47 (24.6)	60 (31.4)	53 (27.7)	6 (3.1)	3 (1.6)	0	非学問的な

ばかりではないと現実的な見方もしていることがうかがえる。

表7からは、「科学的な」や「学問的な」というイメージはこれまでのイメージに比べて弱いと思われる。保育に関してどのような学問を

学べばよいのかがわからずに、未知の世界へ足を踏み入れているといった状況が、入学当初の学生にはあると考えられる。専門職としての自信と責任を培っていくためにも、知的なイメージを高められるような学業の習得に重点をおく

ことの必要性を感じる。

表8からは、保育士のイメージには「重労働だ」というネガティブな印象が強いと感じられる。学生がこのようにとらえていても、保育に対する魅力の方をより大きく感じられていれば困難な状況に遭遇しても乗り越えられるかもしれない。しかし、バーンアウトといった状態で

離職する現状をふまえると、保育士の労働条件に関しても問題意識をもって取り組むことができるように、学生を指導していくことが大切だと考える。

4. 子どものイメージの因子分析結果

子どものイメージの因子分析結果を表9に示

表8 消極的イメージ(保育士)の各項目の答えの分布 人数(%) (n=191)

質問項目	非常に	かなり	やや	どちらともいえない	やや	かなり	非常に	質問項目
自由な	14 (7.3)	22 (11.5)	56 (29.3)	73 (38.2)	25 (13.1)	1 (0.5)	0	不自由な
軽労働な	4 (2.1)	3 (1.6)	2 (1.0)	21 (11.0)	37 (19.4)	76 (39.8)	48 (25.1)	重労働な

した。3つの因子が抽出されたが、3因子での累積寄与率は55.1%であった。

第1因子は、「強い」「やさしい」「かしこい」「たくましい」が含まれた。これらは子どもを

積極的に評価していると考えられたため「プラスイメージ」と命名した。

第2因子は、「可愛い」「明るい」「おもしろい」が含まれた。これらからは子どもに対して

表9 子どものイメージの因子分析

因子名	質問項目	因子1	因子2	因子3	共通性
プラスイメージ	9.たくましいーもろい	0.821			0.690
	8.かしこいーおろかな	0.787			0.653
	2.強いー弱い	0.735			0.544
	7.やさしいー非情な	0.508			0.503
好意的イメージ	6.明るいー暗い		0.710		0.518
	10.おもしろいーおもしろくない		0.706		0.553
	1.可愛いー可愛くない		0.625		0.392
マイナスイメージ	4.きれいなーきたない			0.786	0.646
	3.おとなしいーさわがしい			0.633	0.477
	因子負荷量の2乗和	2.579	1.508	1.25	
	因子の寄与率(%)	27.591	15.075	12.46	
	累積寄与率(%)	27.591	42.666	55.13	

※因子負荷量が0.4以上の場合のみ数値を記載した。

の好意的な印象を持っていると感じられたため、「好意的イメージ」とした。

第3因子は、「さわがしい」「きたない」が含まれた。これらは子どもを消極的に評価していると考えられたため「マイナスイメージ」とした。

なお、「5.素直なー素直でない」の項目は、第3因子の因子負荷量が0.509、第2因子の因子負荷量が0.508とほとんど差がないことより、除去した。

因子分析の結果より、学生は子どもに対しては好意的なイメージをもっていることが明確になった。これは保育士が子どもに接する職業である以上、大変重要な条件になると思われる。

次に各イメージについてそれに含まれる形容語の答えの分布について表10から表12に示す。

表10からは、子どもに対しては「たくましさ」や「かしこさ」などの肯定的な評価がある一方で、「もろさ」や「弱さ」などの保護され

表10 プラスイメージ(子ども)の各項目の答えの分布 人数(%) (n=191)

質問項目	非常に	かなり	やや	どちらともいえない	やや	かなり	非常に	質問項目
たくましい	29 (15.2)	16 (8.4)	39 (20.4)	65 (34.0)	23 (12.0)	12 (6.3)	7 (3.7)	もろい
かしこい	19 (9.9)	31 (16.2)	55 (28.8)	85 (44.5)	1 (0.5)	0	0	おろかな
強い	13 (6.8)	14 (7.3)	25 (13.1)	69 (36.1)	38 (19.9)	22 (11.5)	10 (5.2)	弱い
やさしい	49 (25.7)	46 (24.1)	46 (24.1)	46 (24.1)	2 (1.0)	2 (1.0)	0	非情な

る存在である子どものイメージももっていると考える。

表11からは、子どもに対しては非常に「可愛い」と思っている学生が8割近くにのぼり、子どもへの愛情の強さが現れた結果となった。このことは、学生が保育を目指す過程で自分自

身を支える根幹ともいうべきものである。このイメージが学習意欲の向上につながっていくように授業内容を工夫することや、実習の指導に活かすことが課題となる。

表12からは、子どもに対して「きたない」や「さわがしい」といったマイナスのイメージ

表11 好意的イメージ(子ども)の各項目の答えの分布 人数(%) (n=191)

質問項目	非常に	かなり	やや	どちらともいえない	やや	かなり	非常に	質問項目
明るい	97 (50.8)	51 (26.7)	19 (9.9)	24 (12.6)	0	0	0	暗い
おもしろい	97 (50.8)	52 (27.2)	33 (17.3)	8 (4.2)	1 (0.5)	0	0	おもしろくない
可愛い	151 (79.1)	33 (17.3)	5 (2.6)	1 (0.5)	0	1 (0.5)	0	可愛くない

でとらえている割合が他の項目に比べて高い。しかし、それらは子どもの一面でもあり、否定的な評価とは断定できない。学生は子どもに愛情を感じてはいるが、客観的に子どもを見てい

るともいえるだろう。

5. 保育士イメージと子どものイメージとの関連
保育士イメージと子どものイメージとの間の

表12 マイナスイメージ(子ども)の各項目の答えの分布 人数(%) (n=191)

質問項目	非常に	かなり	やや	どちらともいえない	やや	かなり	非常に	質問項目
きれいな	11 (5.8)	13 (6.8)	16 (8.4)	120 (62.8)	29 (15.2)	1 (0.5)	1 (0.5)	きたない
おとなしい	2 (1.0)	6 (3.1)	7 (3.7)	48 (25.1)	40 (20.9)	57 (29.8)	31 (16.2)	さわがしい

関連性を検討するために、Pearsonの相関係数を求めた。結果を表4に示す。

保育士イメージのうち人格的イメージ、価値的イメージ、積極的イメージは、子どもに対する好意的イメージと中適度の正の相関 ($r=.520, p^{**}<.01$), ($r=.452, p^{**}<.01$), ($r=.402, p^{**}<.01$) があり、有意性が認められた。

保育士イメージのうち専門的イメージは、子どもに対する好意的イメージと弱い正の相関 ($r=.0316, p^{**}<.01$) があり、有意性が認められた。

保育士イメージの知的イメージ、専門的イメージ、人格的イメージは、子どもに対する好意的イメージと弱い正の相関 ($r=.246, p^{**}<.01$), ($r=.216, p^{*}<.01$), ($r=.208, p^{*}<.01$)

* <.01) があり、有意性が認められた。

この結果より、子どもに好意的なイメージをもつことは、保育士のイメージを価値的にまた、

積極的にとらえることに関連することがわかった。また子どもへの好意的イメージは保育士を専門的なイメージにとらえることにも弱い関連

表 13 保育士イメージと子どものイメージとの相関関係

	子どものイメージ	プラスイメージ	好意的イメージ	マイナスイメージ
保育士イメージ	人格的イメージ	0.208**	0.520**	0.179*
	専門的イメージ	0.216**	0.316**	0.030
	価値的イメージ	0.169	0.452**	0.187**
	積極的イメージ	0.174*	0.402**	0.032
	知的イメージ	0.246**	0.188**	0.120
	消極的イメージ	0.191**	0.110	0.183*

p* <.05

p** <.01

があるといえる。以上のことより、子どもへの好意的イメージをもつことは、保育士をより高いイメージにとらえるということがわかった。しかし、保育士を知的なイメージとしてとらえることは子どもに対するイメージとは関連はしなかった。このことより、保育士としての学問的な専門性の追及は、学生の子どもに対する愛情に頼るだけでは不十分で、学生が関心を高められるように、より専門職としての独自性が感じられる授業の工夫が課題になると考えられた。

IV まとめ

1. 保育士イメージでは、「人格的イメージ」「専門的イメージ」「価値的イメージ」「積極的イメージ」「知的イメージ」「消極的イメージ」の6つの因子が得られた。特に学生は「思いやりがある」や「優しい」といった人間性のある「人格的イメージ」を保育士に強く抱いていた。
2. 子どものイメージは、「プラスイメージ」「好意的イメージ」「マイナスイメージ」の3つの因子が得られた。これらから、学生は子どもに対して好意的な感情を持っていることが明確になった。
3. 子どもに「好意的イメージ」をもつことは、保育士のイメージを「価値的に」また「積極的に」とらえることと関連することがわかつ

た。

〔文 献〕

- 1) 水島恵一：イメージとは—総論—，教育と医学，31(1)，pp.4 - 12，1983
- 2) 水島恵一：イメージ心理学9，pp.41 - 45，pp.325 - 327，大日本図書，1990
- 3) 白井千津・真嶋由貴恵：看護職の現実・理想・メディアにおけるイメージ構造の分析，日本看護学会誌，17(3)，pp.96 - 97，1997
- 4) 伊藤 敬：澤柳政太郎の教職論における専門性と自律性，静岡大学教育学部研究報告第45号，pp.181 - 199，1995
- 5) 竹内 洋：準専門職としての教師，ソシオロジー，17(3)，p75，1972
- 6) 大谷和代・松浦妙子：看護学生の入学動機別看護婦イメージ等の経年的変化から探る看護教育の課題，看護展望，22(9)，pp.78 - 85，1997
- 7) 田尾雅夫：プロフェッショナリズムにおける態度構造の比較分析，京都府立大学学術報告，pp.159 - 172，1983
- 8) 門脇千恵 他：看護系大学生が抱く看護婦・士に対する現実像と理想像とマスメディア像，日本看護学会誌，10(1)，pp.18 - 24，2001
- 9) 小笠原昭彦・鈴木初子：看護短期大学生の自我同一性地位と看護職イメージ，名古屋市立大学看護短期大学紀要，10，pp.81 - 89，1998
- 10) 岩永秀子・山本昇：看護学生の自己教育力におよぼす看護婦イメージの影響，日本看護学教育学会誌，7(3)，pp.17 - 28，1997

《学生への質問紙調査の内容》

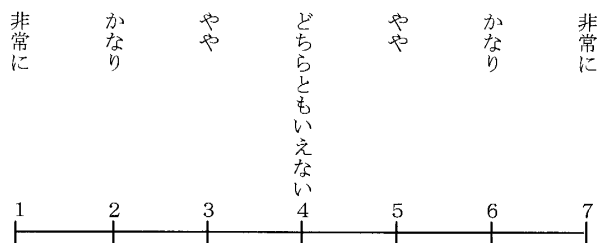
【項目 I】

ご自身に当てはまるものに○をしてください。

1. ごきょうだいは何人いますか
 1. 0人
 2. 1人
 3. 2人
 4. 3人
 5. 4人以上
2. あなたの家族の形態はどれにあたりますか
 1. 核家族
 2. 三世代家族
 3. その他()
3. あなたのお母さんは仕事をされていますか
 1. はい
 2. いいえ
 3. 一時はしていた
4. 子どもに接した経験がありますか
 1. 非常にある
 2. ある
 3. 少しある
 4. ほとんどない
 5. 全くない
5. 保育園にいった
 1. はい
 2. いいえ
6. 幼稚園にいった
 1. はい
 2. いいえ

【項目2】

保育士のイメージについて1～7のうち、もっとも当てはまるものに○をつけてください。



1. 苦しい	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	楽しい
2. 親しみにくい	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	親しみやすい
3. 向上心のない	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	向上心のある
4. 体力のない	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	体力のある
5. やりがいのない	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	やりがいのある
6. 軽率な	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	慎重な
7. 感受性のない	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	感受性のある
8. ぐったりした	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	生き生きした
9. 判断力のない	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	判断力のある
10. ささやかな	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	大変な
11. 重労働な	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	軽労働な
12. 愚かな	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	賢い
13. 責任感のない	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	責任感のある
14. ユーモアのない	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	ユーモアのある
15. 技術のない	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	技術のある

16. 魅力のない	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	魅力のある
17. 非学問的な	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	学問的な
18. 不自由な	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	自由な
19. 鈍重な	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	機敏な
20. 思いやりのない	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	思いやりのある
21. 価値のない	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	価値のある
22. 非倫理的な	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	倫理的な
23. 冷たい	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	温かい
24. 頼りない	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	頼もしい
25. 暗い	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	明るい
26. きつい	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	優しい
27. 弱々しい	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	たくましい
28. 不親切な	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	親切な
29. 非科学的な	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	科学的な
30. 気が利かない	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	気が利く

【項目3】

子どものイメージについて1～7のうち、もっとも当てはまるものに○をつけてください。

	非常に	かなり	やや	どちらともいえない	やや	かなり	非常に							
	1	2	3	4	5	6	7							
1. 可愛くない	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	可愛い
2. 弱い	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	強い
3. さわがしい	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	おとなしい
4. きたない	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	きれいな
5. 素直でない	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	素直な
6. 暗い	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	明るい
7. 非情な	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	やさしい
8. おろかな	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	かしこい
9. もろい	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	たくましい
10. おもしろくない	1	・	2	・	3	・	4	・	5	・	6	・	7	おもしろい